

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0570512632		
法人名	社会福祉法人 久盛会		
事業所名	グループホーム田園		
所在地	由利本荘市岩城富田字根本10-22		
自己評価作成日	令和3年2月6日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

一人一人の得意とすること、できる事を理解し、自信をもって生活できるように、共に生活している意識を大切に、感謝の気持ちを伝えている。生活のリズムや気分の変化を捉えたチームケアに努め一日の決まり事はなく、その日の気分や意向に合わせて外出などを行っている。又、季節を肌で感じ、地域の方や入居者間の交流を深められるように外出先を吟味している。  
 ・食事作りでは、季節の食材選びや食事作り、片付けなど共に行い、グループホームとしての役割、目的を意識している。食で季節を感じてもらえるようにしている。食べたいものを食べるほかにも栄養面、健康にも気を付けバランスの良い食事をとれるようにしている。  
 ・年2回の総合防災訓練の他、毎月、自主防災訓練を実施している。地域の災害ボランティアの協力体制があり防災意識を高めている。天窓や大きな窓から入り込む光がホーム全体を明るく照らし、笑い声が絶えず明るい雰囲気職員がいきいきと働いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所内は清潔感があり、生活感を大切にしながら安全面への環境整備もされています。感染対策も十分にされており安心して生活できている印象を受けます。畳のスペースと椅子・テーブルスペースとがあり、利用者の好みやADL状態に応じて過ごす場所を選択できるようになっています。事業所付近の畑を地域の方からお借りし畑作業に取り組みられる等地域の方との交流に力を入れています。また、積極的な延命等を望まず医療行為が伴わない方に対しては利用者・ご家族の希望に応じて事業所での看取りも可能です。災害時や日々の健康管理面でも法人内での連携体制がとれています。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田市旭北栄町1番5号		
訪問調査日	令和3年3月12日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 <b>代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</b>	法人全職員が共有できるものとしている。基本的な立ち返りとしている。理念を毎朝読み上げ実践に繋がられるようにしている。	毎朝法人の理念を確認し、理念の共有がされています。事業所立ち上げの理念や職員のあるべき態度についても共有されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に畑を借り野菜作りを今年度も継続した。ご近所から野菜を頂き調理方法を教わり交流している。フラワーボランティア、介護支援ボランティアの交流は感染対策のため行っていない。床屋も利用者が入居前に利用していた店に毎日の体温測定に協力してもらい来園してもらっている。社会性の維持や関係性を継続している。	コロナウイルス感染への配慮もあり、ボランティア等の受け入れを控えています。挨拶を交わす等日常的な交流は継続していますが、事業所への配慮もあり来所される方も今はあまりありません。	コロナウイルス感染症への懸念がある中で、これからの地域とのつきあい方について、検討していただきたい。
3		○事業所の力を活かした <b>地域とのつながり</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に <b>伝え、地域貢献している</b>	広報を地域に配布し理解を深めている。また法人で開催している「いきいきサロン」や「認知症カフェ」に参加して認知症の理解を深める活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催していたが今は書面にて利用状況と活動報告をしている。	運営推進会議は役所や消防、運営推進委員、民生委員等に書面で事業所の取り組み等を報告しています。	一方的な報告にとどまらず、地域の方の意見を汲み取れるような会議の在り方を検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議での施設の空き情報等の情報提供をしている。介護保険関連の手続きや不明な点等はいつでも問い合わせに答えていただけるよう関係を築いている。	法人の代表者が地域ケア会議に参加し、事業所の空き状況等について情報提供しています。法令の解釈や各種手続き等について問い合わせる等して必要な連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを原則とし、身体拘束に関する勉強会を年2回以上実施している。職員は拘束による弊害と緊急やむおえない状況も理解している。入居者は自由で開放的な環境で過ごしていただいている。スピーチロックも気を付けている。	身体拘束は行われていません。法人内の学習会に参加し、参加できなかった職員には伝達研修を行う等して身体拘束に対する正しい理解を図っています。言葉使いにも注意し、適切な言葉を選んでコミュニケーションを行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会に参加し学ぶ機会がある。具体的な対応方法を職員相互が意見交換し学んでいる。認知症ケアの知識不足による、職員のストレスを回避するように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事例により包括支援センターや法人の相談員及び主任ケアマネとの連携体制ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時は、ご本人、ご家族と面談を重ね十分な時間をかけ、懇切丁寧な説明に努めている。同意を得て文書も交付している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人としての苦情受付、解決体制があり、ホームにも意見箱が設置されている。また、重要事項説明書には窓口が明記され説明がなされている。苦情は法人のどこにでも申し出ることができる。日ごろから入居者・ご家族の意向や思いを理解できるように配慮している。ご家族からの意見、要望は担当者会議や面会時に聞き取るようにしケアプランに反映させている。	法人としての苦情受付、解決体制があり、事業所にも意見箱を設置し、苦情は法人のどこにでも申し出ることができる体制をとっています。日頃から入居者・ご家族の意見、要望を確認する他、担当者会議や面会時に聞き取るように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ユニット会議を開催し業務改善や要望など確認している。管理者は法人の運営会議に出席し状況の報告や要望の提案を行い、結果をフィードバックしている。またユニット会議の議事録は、法人内で回覧し会議の内容がわかるようにし職員の意見や提案が反映される仕組みがある。	事業所内での会議で上がった意見を、法人にあげる事で職員の意見が反映されるようになっていきます。意見については法人よりフィードバックされて改善に向けて取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度に基づき事考課、面談を行い目標やりがいを確認し昇給している。特定処遇改善加算もキャリアにより加算されている。ストレスチェックも毎年行われ働きやすい環境作りを法人で実践している。年次有給休暇日数も増したが、給休暇消化率も同率となり全体で休める日が増えている。リフレッシュ休暇を取得し仕事に対するモチベーションアップにつながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、 <b>代表者自身</b> や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修会参加やグループホーム協議会の勉強会の参加がある。職員には初任者研修と認知症実践者研修と認知症介護リーダー研修に順次参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、 <b>代表者自身</b> や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は東京事業所の運営にも参画し広域的な情報共有とケアの質の向上に努めている。管理者は地域のGH連絡協議会に所属し会議や研修会を通じネットワークづくりや情報交換をし相互のサービス向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員はリロケーションダメージをよく理解し、入所前にご本人の自分史(フェイスシート)作成の情報収集を行い、ケアプランに反映している。入所直後は性格や好みに配慮し手厚い人員配置に配慮し信頼関係構築に努めている。また自宅で使用していたものの持ち込みや習慣としていたことの継続を行い早く慣れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅介護の苦勞や大切にしてきたことを理解し、入所時の暫定プランに要望を反映している。入所後は利用の状況を細めに報告しながら、自宅でしていたことの継続ができるように支援している。普段の様子などの面会時や電話にて状態報告を密にし職員と家族の信頼関係の構築に努めている		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や趣味活動の継続は認知症の進行を緩和することを職員はよく理解している。家事活動など得意とすること、できる事、好きなことを活かし失敗しないようにして感謝しながら支援している。一緒にいて安心できる関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のご本人に対する思いを反映できるように、担当者会議等で確認しケアプラン作成している。またできる限り面会や外出、買い物など家族との関わりを持てるようにし、共に支えていく関係を築いている。年に一度家族交流会があり、ご家族との絆を図り楽しめる行事をしていたが今年には行っていない。面会の制限のあったがタブレットを使ってのテレビ面会やドア越しの面会など行いきずなを大切に安心して頂けるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や地域への買い物などは行う事ができなかった。馴染の美容室の訪問は継続している。同法人内でのなじみの利用者の訪問や職員と入居者間の繋がりがある。	コロナウイルス感染による影響で外出する機会があまりありませんが、法人内のサービスを利用されている馴染みの人や職員との交流を行い、関係性の継続に努めています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の趣味活動、協力しながら行う家事活動、連帯感を高める誕生会や季節の行事などメリハリをつけて行い、各々が主人公になり認められる存在になれるように職員が間に入り良好な関係性を作りに努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内や他事業所に住み替えた方に面会したり異動した職員がグループホームに面会に来たりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向を引き出せるように言葉遣いに注意している。日々の活動や日常の会話から本人の意志や意向を確認し、ケアプランに反映し利用者本位なプラン作りに心がけている	日常生活の中で、一人一人の意向を把握するように努めています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 <b>生きがい</b> 、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前面談等により、ご家族、ご本人からの情報で自分史(フェイスシート)とアセスメントで把握に努めている。入所後は会話からの新たな情報は書き足す事でフェイスシートも内容が濃くなっている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録は食事や排せつ、入浴以外で日々の気分や変化を記録している。又、毎朝、夕に申し送りと業務日誌や連絡ノートも活用しながら現状の把握ができるようにしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	おおむね半年ごとにケアカンファレンスを実施、モニタリングシートを活用し職員全員とご本人ご家族の意向を反映させている。また状態変化のある時は随時のカンファレンス実施しプランの見直しをしている。	半年毎に事業所内でカンファレンスを行い、計画の作成に当たっています。その際、ご本人やご家族の意向を伺う他、受診時の報告や法人内の看護職員の意見も必要に反映させています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫は個別ノートを活用し情報共有に努めている。ケアカンファレンスの他、ユニット会議や申し送り時にもケアの注意点の確認の場を設けている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館や道の駅、商店等を活用し楽しみのある生活ができるように努めている。月1回支援ボランティアは休止している		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、かかりつけ医の希望と緊急受診先を確認している。24時間の連絡体制があり必要時は往診も可能。薬はかかりつけ薬局から配達があり内容の変更に対し説明と確認があり相談できる体制がある。歯科受診も適宜行われている。法人内の看護師による週1回の健康チェックがある。入居者の健康管理、相談体制もある。	入所後もこれまでのかかりつけ医やかかりつけ薬局の利用が可能です。また、必要な方については歯科受診も行っています。事業所はかかりつけ医や薬局との連携ができています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や不安なことは24時間体制で法人看護師に相談できる。医療的なアドバイスもあり適切な医療サービスも充実している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があれば医療連携や退院支援室と連携し情報交換や早期の退院に向けて連携している。また主治医や協力医療機関の医師との連携で退院後の状態の安定も図る体制がある。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの指針があり、看取りを希望すれば最後までホームでの生活を継続する事ができる。継続困難になっても法人施設やかかりつけ医師と連携し本人、ご家族の希望に沿った支援ができるようにしている。	重度化や終末期における事業所の指針を定め、入所時に説明しています。ご本人やご家族の意向を踏まえ、事業所に対応できる方に対しては看取り介護まで行っています。	重度になった方等に対して、いつでも適切な支援が提供できるように、継続的な学習を行っていく事を期待します。
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変が予想される場合の対応や事故発生時の話し合いを行っている。救命講習に職員が順次参加している。勉強会や話し合いから実践力が身につくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害を想定した訓練を行っている。特に夜間職員が一人で行う訓練に力を入れている。感染対策の為、総合防災訓練は町内の災害ボランティアの協力を得ずに避難する訓練を行った。都度消防からのアドバイスを得ながら安全に避難できるように訓練している。	自然災害や火災時の避難訓練の他、有事の際の利用者の行動を分析する等して、適切な対応がとれるように努めています。発電機等の非常災害時の備蓄も法人と連携して確保しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は尊厳やプライバシーをよく理解している。認知症が進行しても一人の大切な人間として尊厳やプライバシーを守るかかわりをしている。その人にあった声掛けをしている。	認知症についての学習会等を通じて、人権やプライバシーについての確認を行い、適切な言葉使いやプライバシーに配慮した対応がされています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単に答えやすい言葉かけをや、選択肢を狭めないように自己決定できるように働きかけに努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、天気や気分に合わせて入居者一人ひとりのペースで過ごせるように希望や意向に配慮した生活ができるように努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣や化粧などの身だしなみをその人らしく楽しめるように選ぶ衣装をほめたり、アドバイスすることでおしゃれが楽しめるように言葉掛けしている。行事の時はお化粧品で参加している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬なものや入居者の得意とする料理をメニューに取り入れている。その日のメニューを伝えたり、味付けを好みにしてもらうなどしている。料理の腕前をほめている。ときにはアレンジ料理をつくってもらうこともある。入居者の能力に合わせて家事の支援をしている。月一回食味会があり季節の食材を使用した料理を楽しんでいる。	ご本人の残存機能を活用する事を意識するとともに、興味や関心にも配慮し利用者個人に合わせて役割を与え食事を楽しめる工夫をしています。食味会では法人内の別施設で調理された物を事業所へ運び、いつもと違った食事を楽しめるよう取り組んでいます。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士や主治医、看護師の指導を得ながら、栄養バランスや嗜好などに配慮し、食物繊維、乳製品、季節の物を取りこんだ献立としている。職員は高齢者が脱水になりやすいことを理解し活動ごとの水分補給に努めている。体重の増減により食事、おやつの内容の見直しもしている。水分量のチェックも行い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状態に合わせ、ケアを見守りしている。手順について声掛けが必要な方には、状態に合わせた言葉かけで本人が出来る限り自立できるようにしている。就寝時には入れ歯洗浄剤を使用している。協力歯科医院や歯科衛生士からの助言も頂き口腔衛生を行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状態を把握し安易にオムツにせず可能な限りトイレでの排泄を支援している。排泄パターンを把握やトイレのサインを見逃さないようにし誘導も行っている。	利用者一人一人の排泄パターンの把握に努め、出来るだけトイレでの排泄が継続できるように努め、ほとんどの利用者がトイレで排泄されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘のメカニズムを理解し、水分補給、毎朝30分の運動と乳製品や食物繊維を取り入れた食事の工夫をしている。腹部のマッサージを行ったりしている。排便状態も記録され便秘にならないよう管理をしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行い個別に対応している。衣類やタオルの準備など段階を踏みながら無理強いせず自ら入浴できるように配慮している。声掛けの工夫や入浴剤やバラ園のバラを利用したバラ風呂など入浴したくなるような雰囲気作りをしている。最低でも週2回は入浴できるように支援している。体調不良により入浴ができない状態の場合は清拭や陰部洗浄を行っている。	入浴は毎日行っています。入浴を嫌がる利用者に対しては、声かけを工夫したり、時間をずらす等して対応しています。敷地内のバラを利用したバラ風呂等入浴を楽しめる工夫を行っています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は午後9:00を目安にし、うす暗く静かな環境を作っている。各自の生活習慣や日中の活動量や状況に合わせて休息の支援をしている。一人一人の体調や就寝時間に配慮している。どうしても眠れない場合は静かに寄り添い見守るケアに努めている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴と薬の内容を分かるように個人ファイルに説明書を添付いつでも確認できるようにしている。体調変化については主治医と看護師に適宜連絡し指示を確認している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人生史で職歴や趣味嗜好を理解しており、それぞれの得意とすることを活かし支援をしている。達成感や喜びを感じられるよう個々の状況に応じた時間配分をし、飽きたり疲れないよう支援している。天気に応じて外に出て散歩などで気分転換をしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠方への外出は出来なかったが、毎朝のごみ捨てを兼ねた散歩やドライブ、近所への散歩などおこない気分転換を図っている。借りている畑とホーム花壇の水やりや草取りなど行った。	コロナ感染症によりこれまでのような外出は出来ていないが、感染症に配慮しながら散歩や近場への外出を行っています。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族のご理解と協力を得て、お小遣い程度のお金を所持してる方もいる。好きな物を買う楽しみを得られるようにしている。自ら支払や現金管理できるよう支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは年賀状程度でほとんどない。電話については使用を取り次いだり、携帯電話を使っている方がいる。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、消毒液を使用しての掃除を入居者の方で行なっている。月1回、大掃除がありホーム内外の清潔に努めている。天窓からの採光があり季節感のある装飾や暦を入居者と共に作っている。加湿器、空気清浄機の使用もあり温度、湿度に配慮している。	天窓からの採光があり施設内は明るく過ごしやすいです。トイレは車椅子でも支障のない広さがとられていて清潔感があります。清掃が行き届いており感染対策も十分に行われています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる空間や小人数で過ごせる空間など隠れる部分を作っている。遠くから様子を伺ったり、職員や他利用者に気兼ねせず好きな仲間と過ごせるスペースの工夫がされている。新聞、図書コーナーもあり活用されている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際しては出来る限り使い慣れた家具や寝具食器などを持ってきていただいている。今までの家具の配置など最大限に配慮し落ち着いて過ごせるように支援している。またアルバムや本など出来る限り見慣れたものを置くようにしている。	ベットはギャッチアップ等可能な物を設置しています。利用者個々に造花を飾ったり、大切な写真を飾る等して、居心地よく安心して過ごす事が出来るようになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所は対面式で調理をしながらでもお互いの確認でき安全な生活支援に繋げている。食堂から和室まで段差のない作りとなっている。全館床暖房完備しており各所にソファを設置し安心・安全な生活に配慮している。モニターを活用し死角の見守りと安全に自立した生活ができるよう工夫している。		